

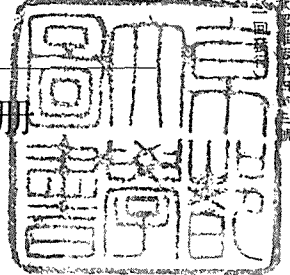
昭和二十四年六月一日運輸省特別取扱郵便物第百三十三號
昭和三十一年三月十五日印刷 (毎月一回發行)

哲學研究

第三十八卷 第七册

第四百四十一號

昭和三十一年三月二十日發行



學習について……………矢田部達郎

辨別學習の轉移……………本吉良治

——特に動物心理學の領域において——

言語學習に於ける類似性の問題……………梅本堯夫

彙報

新着外國雜誌所載論文一覽

京都大學文學部內

京都哲學會

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行う
 - (一) 毎月一回研究会を開く
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委嘱する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年一、二二〇圓、又は半年六一〇圓を前納する
 - 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

京都哲學會役員

委員

有賀鐵太郎
 池田義祐
 石田仁
 井島勉
 上野照夫
 白井二尙
 酒井修
 重澤俊郎
 島芳夫
 園原太郎
 高田三郎
 武内義範
 田中美太郎
 長尾雅人
 西谷啓治
 野田又夫
 松尾義海
 三宅剛一
 矢田部遠郎

かつた。エビンググハウスがかれの鋭敏な實證的精神によつて、記憶材料からあらゆる熟知性と類似性とを除去して以來、心理學は暫くこの問題を括弧に入れてその研究を進めて來たのである。今や再びこの問題を實證的水準において取扱うことができる時代が來た。それは熟知性や類似性を、従つてまた辨別基盤と辨別微標とを區別して操作することが可能になつたからである。これによつて恐らくかの分配學習効果や過剩學習効果や消去抵抗に關する數々の謎が解ける日の近づいたことを感じるのは筆者ばかりではあるまい。この輝かしい出發點がわが國の學者たちの努力によつて切開かれたといふことは何といつても喜ばしい限りである。細部に亘る考察は後日に譲るとして、ここにはただ次に述べられる二つの論文の意義について紹介の勞を取つた次第である。

(筆者 京都大學文學部「心理學」教授)

(了)

前 號 目 次

質存哲學について……ゲルハルト・クナウス

聖トマスに於ける *esse* と
existere の (トマス) (承前)……山田 晶

— *existere* の意味の探求・第四トマスの用法(二) —

最高善について……南澤 貞美

— カント辯證論の課題 —

新著外國雜誌所載論文一覽
彙報

- training. Amer. J. Psychol., 1954, 67, 720-722.
- 83 Warren, J. M. Perceptual dominance in discrimination learning by monkeys. J. comp. physiol. Psychol., 1954, 47, 290-292.
- 83 Watanabe, T. (渡邊十四生) 非別察習の連続性について. 岡山大学法文学部學術紀要 1953 第三號. 17-28.
- 84 Wickens, D. D., Schroder, H. M., and Snide, J. D. Primary stimulus generalization of the GSR under two conditions. J. exp. Psychol., 1954, 47, 52-56.
- 85 Yamauchi, J. (山内二郎) 濁光量の定義及びその標準. 心研, 1937, 12, 68-80.
- 89 Yatabe, Y. (矢田部達郎) 動物の思考. 1953, 培風館.
- 巻號の () は引用によつたことを示す. (註釋 京都大学文学部〔心理学〕誌)

次號論文預告

前ソクラテス期のギリシア哲學
 における \wedge 不可分なもの \vee …… 鈴木 照雄

幸福と人間像 …… 岸 畑 豊

— テンヤットの幸福の概念 $\text{D}(\text{I})\text{S}(\text{I})\text{P}(\text{I})$ —

理トエスに於ける esse と
 existere $\text{D}(\text{I})\text{S}(\text{I})\text{P}(\text{I})$ て (承前) …… 山田 晶

— existere の意味の探究・範四・トエスの用法 (III) —

會告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は京都市左京區田中西浦町弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費(年一、二二〇圓又は半年六一〇圓)をお拂込下さい

「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」

一、會費切れの場合は封筒に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂込下さい、一年分(又は半年分)會費は原則として本誌十二冊(又は六冊)の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年(又は半年)毎に精算します

一、會員の轉居入退會等(納集事務以外は一切)の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい

一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛に御送り下さい

京都哲學會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和三十一年三月十五日印刷
昭和三十一年三月二十日發行

編集人

京都大學文學部内

右代表者

發行人

酒井修

印刷人

伊藤久春

印刷所

弘文堂印刷所

發行所

株式會社

弘文堂

東京都千代田神田駿河臺四ノ四

註文規定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金郵税共(一部、定價一二〇圓・郵税八圓)前金にてお送り下さい

一、特に請求書及び領收書を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

昭和三十一年三月二十五日發行(每月一回)

THE JOURNAL OF PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXVIII

March, 1956

No. 7

On LearningTatsuo Yatabe

*Transfer of Discrimination Learning
in Animal Psychology*Ryôji Motoyoshi

Similarity Problems in Verbal LearningTakao Umemoto

Published Monthly

By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY

(The Kycto Tetsugaku-Kai)

Kyoto University

Kyoto, Japan

特價 金 一 七 〇 圓